

1. 消防の平成維新ー何がどのように変わるのか、どうすればよいのか、菅原進一、フェスク、320号、pp 2-7、2008年6月(査読有)
2. 住宅防火の現状、菅原進一、火災誌、295、58巻、pp 11-15、2008年8月(査読無)
3. 火災時における車椅子使用者のエスカレーターによる避難について、菅原進一、建材試験情報、88巻、pp 14-19、2008年8月(査読無)
4. 防災マネジメントの考え方、菅原進一、予防時報、127、pp 15-16、2008年9月(査読有)
5. ケーブル配線混在のバスダクト幹線の防火区画床貫通部の防火措置工法の研究 (A study of fire stop system for bus ways including cables through penetration on concrete floor)、大和征良、平瀬孝輔、菅原進一、電気設備学会全国大会論文集、愛媛、D-5、pp 183-186、2008年9月(査読有)
6. 消防の広域化推進の展望と課題ー都道府県消防広域化推進計画の策定を受けてー、菅原進一、山崎 登、他4名、近代消防、vol 46、No. 11、pp 35-47、2008年10月(査読無)
7. グローバルCOE プログラムー先導的防火安全工学の東アジア教育研究拠点、菅原進一、火災誌、296、Vol. 58、No. 5、pp 53-55、2008年10月(査読無)
8. 火災安全工学COE の21世紀からグローバルへの系譜、菅原進一、大宮喜文、松山賢、フォーラム2008 講演予稿集、pp 29-30、2008年10月(査読無)
9. Global COE program on fire education and research for performance-based fire safety design、Shinichi Sugahara、Proc. of Fire Education and Research Symposium、pp 1-17、Taipei、Dec. 2008(査読有)
10. 仕上げ、リ・イノベーション、菅原進一、建築仕上技術、pp 59、Vol. 34、No. 402、2009年1月(査読無)
11. 二輪車の燃焼性状に対する排気量・型式の影響、抱 憲誓、菅原進一、火災誌、298、59巻、No. 1、pp 36-41、2009年2月(査読無)
12. 消防広域化の展望、菅原進一、予防時報、pp 5-13、2009年3月(査読有)
13. Fire safety and Sustainability、Shinichi Sugahara、ISO TAG8 meeting、Geneva、2009
14. ドライミスト冷却効果の検証とCFD 解析 ドライミストを用いる採涼システムに関する研究、日本建築学会環境系論文集、尹 奎 英、山田英貴、奥宮正哉、辻本 誠、NO. 633 P. 1313 2008 年 11 月 (査読有)
15. 関東大震災における東京市の避難に関する研究、平野将樹、西田幸夫、辻本誠、平成20年度日本火災学会研究発表概要集 pp. 214-215、2008 (査読無)
16. 停止エスカレーターにおける避難行動特性に関する実験的研究その1 地下駅舎のエスカレーターの避難問題と実験計画、佐藤歩、門倉博之、岡部弘志、西田幸夫、辻本誠、関沢愛、平成20年度日本火災学会研究発表概要集 pp. 64-65、2008 (査読無)

17. 停止エスカレーターにおける避難行動特性に関する実験的研究その2 乗り口降り口における流動特性値、岡部弘志、佐藤歩、門倉博之、西田幸夫、辻本誠、関沢愛、平成20年度日本火災学会研究発表概要集 pp. 66-67、2008 (査読無)
18. 停止エスカレーターにおける避難行動特性に関する実験的研究その3 エスカレーターの高低差と歩行速度、門倉博之、佐藤歩、岡部弘志、西田幸夫、辻本誠、関沢愛、平成20年度日本火災学会研究発表概要集pp. 68-69、2008 (査読無)
19. 東京都における火災傾向の研究－1975年-2005年の火災件数と規模の変遷－、松浦郁実、西田幸夫、辻本誠、平成20年度日本火災学会研究発表概要集pp. 184-185、2008 (査読無)
20. 地下駅舎の出口探索行動中の心拍変動に関する実験的研究、佐藤歩、本多薫、門間政亮、西田幸夫、辻本誠、日本建築学会大会学術講演梗概集pp. 51-52、2008 (査読無)
21. 停止エスカレーター使用時の群集避難行動特性と安全性に関する実験的研究、岡部弘志、佐藤歩、門倉博之、西田幸夫、辻本誠、関沢愛、日本建築学会大会学術講演梗概集 pp. 71-72、2008 (査読無)
22. 旅館・ホテル等における消防用設備等の状況と火災死者数に関する研究、松浦郁美、西田幸夫、辻本誠、日本建築学会大会学術講演梗概集pp. 103-104、2008 (査読無)
23. 生活系廃棄プラスチックの自然発火についての考察、須川修身、佐藤丈知、Safety & Tomorrow、123巻、pp. 38-45、2009(査読無し)
24. 低粘度シリコン液入り変圧器の防火安全性能に関する検討、山岸明、宮原秀幸、三瓶宏幸、須川修身、中澤望、電気学会研究会資料、SA巻08、pp. 35-40、2008(査読無し)
25. プラスチック系廃棄物の「におい」による自然発火の感知、上矢恭子、佐藤丈知、竹内大樹、須川修身、Safety & Tomorrow、121巻、pp. 52-57、2008(査読無し)
26. 粒子法による泡消火薬剤放射シミュレーション、宮下達也、須川修身、和田義孝、第41回安全工学研究発表会講演予稿集、pp. 179-180、2008(査読無し)
27. プラスチック材の熱分解・燃焼時に発生するにおいの測定、竹内大樹、須川修身、上矢恭子、第41回安全工学研究発表会講演予稿集、pp. 159-160、2008(査読無し)
28. 無限傾斜天井に沿った熱気流の流れ性状、安藤真樹、岡泰資、須川修身、古屋賢一、第41回安全工学研究発表会講演予稿集、pp. 57-58、2008(査読無し)
29. プラスチック系廃棄物の自然発火の検討、竹内大樹、佐藤丈知、上矢恭子、須川修身、平成20年度研究発表会概要集 日本火災学会、pp. 138-139、2008(査読無し)
30. におい識別装置による熱的不安定化にあるプラスチック系廃棄物の測定、上矢恭子、竹内大樹、佐藤丈知、須川修身、平成20年度研究発表会概要集 日本火災学会、pp. 140-141、2008(査読無し)
31. 全面タンク火災消火支援用浮子の実験的評価、宮下達也、須川修身、平成20年度研究発表会概要集 日本火災学会、pp. 32-33(査読無し)

32. 無限傾斜天井に沿った熱気流の流れ性状－その1 実験と結果－、安藤真樹、岡泰資、須川修身、古屋賢一、宮下達也、平成20年度 研究発表会概要集 日本火災学会、pp. 270-271、2008(査読無し)
33. 無限傾斜天井に沿った熱気流の流れ性状－その1 数値計算による流れ性状の予測－、古屋賢一、須川修身、宮下達也、安藤真樹、岡泰資、平成20 年度 研究発表会概要集 日本火災学会、pp. 272-273、2008(査読無し)
34. JIS C 2101 ガラステープ法による絶縁性液体の燃焼性、中澤望、須川修身、上矢恭子、鈴木久仁子、宮城克徳、山岸明、第28回絶縁油分科会研究発表会予稿集、pp. 、2008(査読無し)
35. JIS C 2101 ガラステープ法による絶縁性液体の燃焼性、中澤望、須川修身、上矢恭子、鈴木久仁子、宮城克徳、山岸明、平成20年電気学会電力・エネルギー部門大会予稿集、pp. 81-82、2008(査読無し)
36. 設計用火源を目指した二輪車の燃焼性状、抱 憲誓、織戸貴之、松山 賢、大宮喜文、高橋 済、中澤守正、菅原進一、日本建築学会関東支部審査付き研究報告集3、2008 (査読有)
37. Full-Scale Experimental Study on Burning Behavior of Motorbikes、 N. Kakae、 T. Orito、 K. Matsuyama、 Y. Ohmiya、 S. Sugahara、 W. Takahashi and M. Nakazawa、 Proc. of 11th Fire and Material 2009、 pp 619-630、 2009 (査読有)
38. Fire Safety Design of Senior Residential Complex – Japanese Case Study–、 Fukui、 K. Nakamura、 M. Kuwana、 H. Tamura、 Y. Hokugo、 A. Tsuchiya、 S. Nakahama、 S. Hanse、 K. Matsuyama、 K. Yamaguchi、 J. Nii、 D. Mase、 R. Nanno、 S. Ito、 A. Yoshioka、 H. Yoneki、 H. Harada、 K. Kasahara and T. Tomatsu、 Proc. of 7th International Conference on Performance-Based Codes and Fire Safety Design Methods、 Case Studies of 7th International Conference on Performance-Based Codes and Fire Safety Design Methods、 2008. 4 (査読無)
39. 水膜システムの防火性能、大宮喜文、小林武雅、抱 憲誓、鈴木淳一、松山 賢、日本火災学会研究発表会概要集、pp 120-121、2008(査読無)
40. 可燃物の形状および密度を考慮した発熱速度予測モデル ～その1 上方火炎伝播速度および燃焼面積の算出～、松山 賢、城 明秀、抱 憲誓、大宮喜文、原田和典、日本火災学会研究発表会概要集、 pp 152-153、 2008(査読無)
41. 可燃物の形状および密度を考慮した発熱速度予測モデル ～その2 発熱速度簡易予測モデルの検証～、城明秀、松山 賢、抱 憲誓、大宮喜文、原田和典、日本火災学会研究発表会概要集、pp 154-155、2008(査読無)
42. 寸法の異なるウレタンマットの燃焼実験 単位面積当たりの発熱速度および火炎伝播速度と燃焼半径の関係、佃めぐみ、城 明秀、松山 賢、抱 憲誓、大宮喜文、原田和典、日本火災学会研究発表会概要集、pp156-157、2008(査読無)

43. 3人がけソファの燃焼性状、砂原弘幸、城 明秀、佃めぐみ、川尻朋之、浅見 高志、抱 憲誓、松山 賢、原田和典、日本火災学会研究発表会概要集、pp 158-159、2008(査読無)
44. 自動二輪車および二輪車構成部材の燃焼性状、抱 憲誓、織戸貴之、松山 賢、大宮喜文、高橋 済、中澤守正、菅原進一、日本火災学会研究発表会概要集、pp 160-161、2008(査読無)
45. 共同住宅の設計パラメータの変動を考慮した火災継続時間の簡易予測式の提案、松原敏子、大宮喜文、松山 賢、原田和典、日本火災学会研究発表会概要集、pp 254-255、2008(査読無)
46. スプリンクラー設備作動時の区画内煙性状への影響、太田 充、桑名裕太、山口純一、松山 賢、大宮喜文、日本火災学会研究発表会概要集、pp 290-291、2008(査読無)
47. スプリンクラー設備作動時の二層ゾーンの概念に基づく区画内煙性状予測モデル、松山 賢、桑名裕太、山口純一、太田 充、大宮喜文、日本火災学会研究発表会概要集、pp 292-293、2008(査読無)
48. 可燃物の形状及び密度を考慮した簡易発熱速度予測モデルの構築、城 明秀、抱 憲誓、松山 賢、大宮喜文、原田和典、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 37-38、2008(査読無)
49. 寸法の異なるウレタンマットの燃焼実験 単位面積当たりの発熱速度および火炎伝播速度と燃焼半径の関係、佃めぐみ、城 明秀、松山 賢、抱 憲誓、大宮喜文、原田和典、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 39-40、2008(査読無)
50. 自動二輪車の可燃物量と燃焼性状、松山 賢、抱 憲誓、高橋 済、中澤守正、大宮喜文、菅原進一、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 41-42、2008(査読無)
51. 輻射から推測した散水中の木材クリブの発熱速度 その1、石原慶大、砂原弘幸、吉川昭光、水野雅之、松山 賢、森田昌宏、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 145-146、2008(査読無)
52. 輻射から推測した散水中の木材クリブの発熱速度 その2、砂原弘幸、石原慶大、吉川昭光、水野雅之、松山 賢、森田昌宏、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 147-148、2008(査読無)
53. 建築空間における可燃物の実態、松原敏子、大宮喜文、松山 賢、原田和典、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 207-210、2008(査読無)
54. 立体的に燃焼する可燃物の発熱速度および火炎高さに関して、抱 憲誓、城 明秀、佃めぐみ、松山 賢、大宮喜文、原田和典、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 219-222、2008(査読無)

55. 地震により損傷を受けた区画部材の耐火性能に関する研究 その1 載荷試験、宮内智矢、市原嵩紘、鈴木淳一、鈴木弘之、近藤史朗、大宮喜文、松山 賢、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2 分冊、pp 321-322、2008(査読無)
56. 地震により損傷を受けた区画部材の耐火性能に関する研究 その2 加熱試験、市原嵩紘、宮内智矢、鈴木淳一、鈴木弘之、近藤史朗、大宮喜文、松山 賢、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2 分冊、pp 323-324、2008(査読無)
57. 実大4 層建物完全崩壊実験における耐火被覆の挙動 E-ディフェンス鋼構造建物実験研究 その32、鈴木淳一、松山 賢、市原崇紘、尾崎文宣、平島岳夫、松岡祐一、日本建築学会大会学術講演梗概集C-1 分冊、pp855-856、2008(査読無)
58. 輻射から推測した散水中の木材クリブの発熱速度 その1、石原慶大、砂原弘幸、吉川昭光、水野雅之、松山賢、森田昌宏、日本建築学会大会梗概集、A-2 pp 145-146、2008 (査読無)
59. 輻射から推測した散水中の木材クリブの発熱速度 その2、砂原弘幸、石原慶大、吉川昭光、水野雅之、松山賢、森田昌宏、日本建築学会大会梗概集、A-2 pp 147-148、2008 (査読無)
60. 携行型ねじ引抜試験機の開発及び現場試験法の検討 現場施工対応型手すり取付強度試験法の提案 その1、瀬戸口俊也、加藤正男、久保田一弘、山口修由、布田 健、直井英雄、日本建築学会学術講演梗概、2008(査読無)
61. 車いす使用者の段差移動動作における筋負担による評価、市田 登、久保田一弘、布田 健、萩原一郎、直井英雄、日本建築学会学術講演梗概、2008(査読無)
62. 段差移動の「負担感」と「筋負担」との対応関係に関する実験研究、垂井健吾、久保田一弘、布田 健、萩原一郎、直井英雄、日本建築学会学術講演梗概、2008(査読無)
63. 人口動態統計Web 検索による日常災害の国別・時代別実態の把握、小林義昌、鈴木ちひろ、稲吉 淳、久保田一弘、直井英雄、日本建築学会学術講演梗概、2008(査読無)
64. 新聞記事Web 検索による日常災害報道の時代別変化の把握、鈴木ちひろ、小林義昌、稲吉 淳、久保田一弘、直井英雄、日本建築学会学術講演梗概、2008(査読無)
65. シックハウス対策としての24 時間換気システムの現状 (特集 室内空気汚染の新たな流れ)、倉淵 隆、エアロゾル研究 23(4) (通号 92)、pp 235-240(2008. Win.)(査読有)
66. Domain decomposition technique for predicting cross-ventilation of buildings、 T. Nonaka、 T. Kurabuchi、 M. Ohba and T. Endo: Proceedings of the 29th AIVC Conference、 vol. 1、 57-63(Oct. 2008) (査読有)
67. Thermal comfort and ventilation performancw of retrofitted apartment houses、 Y. Toriumi、 T. Kurabuchi、 T. Nagai、 K. Fukada、 T. Endo、 S. Kodera and J. Asami:、 Proceedings of the 29th AIVC Conference、 vol. 2、 185-190(Oct. 2008) (査読有)

<p>68. Study on energy conservation effects of wind-induced ventilation in detached house using coupled simulation of semi-empirical ventilation model and network models、 Masaaki Ohba、 Kenji Tsukamoto、 Takashi Kurabuchi、 Tomonobu Goto、 Toshihiro Nonaka and Tomoyuki Endo、 Proceedings of the 29th AIVC Conference、 vol. 3、 21-26(Oct. 2008) (査読有)</p>
<p>69. Thermal and air quality environment in elementary school classrooms with air-conditioning system for cooling、 T. Kurabuchi、 T. Kawase、 K. Fukada、 Y. Iino、 T. Endo and H. Yoshino、 Proceedings of the 29th AIVC Conference、 vol. 3、 73-78(Oct. 2008) (査読有)</p>
<p>70. Study on evaluation of ventilation effectiveness of occupied space in smoking room with the highly-efficient ventilation system、 T. Endo and T. Kurabuchi、 Proceedings of the 29th AIVC Conference、 vol. 3、 163-168(Oct. 2008) (査読有)</p>
<p>71. CFD analysis of thermal environment of a room with floor heating or air conditioning、 Koji Sakai、 Ryutaro Kubo、 Ryoichi Kajiya、 Sizuo Iwamoto、 Takashi Kurabuchi and Takuya Kishida、 The 11th International Conference on Indoor Air Quality and Climate、 Proceedings of INDOOR AIR 2008、 315(August 2008) (査読有)</p>
<p>72. Measurement and simulation of thermal and ventilation performance of retrofitted apartment houses、 Takashi Kurabuchi、 Yoshihiro Toriumi、 Tatsuo Nagai、 Tomoyuki Endo、 Ken Fukada、 Sadanori Kodera and Jiro Asami、 The 11th International Conference on Indoor Air Quality and Climate、 Proceedings of INDOOR AIR 2008、 346(August 2008) (査読有)</p>
<p>73. Application of swirl flow to improve ventilation effectiveness in smoking rooms、 Ken Fukada、 Takashi Kurabuchi and Tomoyuki Endo、 The 11th International Conference on Indoor Air Quality and Climate、 Proceedings of INDOOR AIR 2008、 356(August 2008) (査読有)</p>
<p>74. Enhanced CFD technique to reproduce wind pressure distribution around buildings、 Tomofumi Kawase、 Takashi Kurabuchi、 Masaaki Oba、 Tomoyuki Endo、 Toshihiro Nonaka and Yuma Kouchi、 The 11th International Conference on Indoor Air Quality and Climate、 Proceedings of INDOOR AIR 2008、 420(August 2008) (査読有)</p>
<p>75. Field survey on ventilation characteristics of void space of apartment houses equipped with condensing gas boilers、 Satoru Igarashi、 Takashi Kurabuchi and Futamura Shinya、 The 11th International Conference on Indoor Air Quality and Climate、 Proceedings of INDOOR AIR 2008、 927(August 2008) (査読有)</p>

76. Fundamental study on perfluorocarbon tracer gas technique, Kazukiyo Kumagai, Takashi Kurabuchi, Yoshihiro Toriumi, Tomoyuki Endo and Yumiko Sugimoto, The 11th International Conference on Indoor Air Quality and Climate, Proceedings of INDOOR AIR 2008, 1073(August 2008) (査読有)
77. Ventilation in Japanese schools, Kazukiyo Kumagai, Takashi Kurabuchi, Takeshi Hirano, Tomohiro Kuribayashi, Tomoyuki Endo, Yumiko Sugimoto and Hiroshi Yoshino, The 11 th International Conference on Indoor Air Quality and Climate, Proceedings of INDOOR AIR 2008, 1075(August 2008) (査読有)
78. Domain decomposition technique applied for cross-ventilation of buildings, Takashi Kurabuchi, Toshihiro Nonaka and Masaaki Ohba, The 4th international conference on advances in wind and structure(AWAS'08), 273(May, 2008) (査読有)
79. Study on prediction of ventilation flow rates in detached house based on coupled simulation of semi-empirical envelope flow model and network model, M. Ohba, T. Kurabuchi, T. Goto, K. Tsukamoto, T. Nonaka, T. Endo and Y. Akamine, The 4th international conference on advances in wind and structure(AWAS'08), 275(May, 2008) (査読有)
80. 高効率換気システムの導入による喫煙室内空気質環境の改善に関する研究、遠藤智行、倉淵 隆、浅利雄太郎、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 261-264、2008.8 (査読無)
81. 既存集合住宅の改修による温熱・空気環境の改善効果に関する研究(その2)多寝室型住戸における実測調査、鳥海吉弘、倉淵 隆、長井達夫、深田 賢、遠藤智行、小寺定典、浅見次郎、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 313-316、2008.8 (査読無)
82. 暖房室内の温熱環境評価に関する研究(第3報)床暖房・エアコンにより形成される居室の温熱環境と投入熱量の把握、清水裕幸、倉淵 隆、加治屋亮一、酒井孝司、岩本静男、長井達夫、飯野由香利、遠藤智行、久保隆太郎、小笠原岳、岸田拓也、蛭田厚大、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp477-480、2008.8(査読無)
83. 暖房室内の温熱環境評価に関する研究(第4報)CFDによる室内快適性の詳細検討、蛭田厚大、加治屋亮一、酒井孝司、倉淵 隆、岩本静男、長井達夫、遠藤智行、飯野由香利、久保隆太郎、小笠原岳、清水裕幸、岸田拓也、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 481-484、2008.8 (査読無)
84. 暖房室内の温熱環境評価に関する研究(第5報)数値サーマルマネキンを用いた人体放熱特性の把握に関する基礎的検討、小笠原岳、倉淵 隆、加治屋亮一、酒井孝司、岩本静男、久保隆太郎、蛭田厚大、清水裕幸、岸田拓也、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 485-488、2008.8 (査読無)

85. CFD を主軸とした住宅の温熱環境解析に関する研究(第1報)強制対流暖房室内のLES解析、小野浩己、酒井孝司、久保隆太郎、加治屋亮一、岩本静男、倉瀨 隆、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 489-492、2008.8(査読無)
86. CFD を主軸とした住宅の温熱環境解析に関する研究(第2報)床暖房室内のLES解析、酒井孝司、小野浩己、久保隆太郎、加治屋亮一、岩本静男、倉瀨 隆、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 493-496、2008.8(査読無)
87. 冷房を設置した小学校教室における温熱・空気環境に関する実態調査、川瀬智文、倉瀨隆、飯野由香利、深田 賢、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 1193-1196、2008.8(査読無)
88. 全国調査に基づいた公立小学校における暖冷房・換気設備の整備および使用状況(第1報)調査概要と冷暖房・換気設備の整備状況、飯野由香利、吉野 博、瀧澤のりえ、倉瀨隆、村松 學、岩下 剛、長澤 悟、長谷川麻子、永田明寛、熊谷一清、空気調和衛生工学会学術講演会講演論文集、pp 1385-1388、2008.8(査読無)
89. Investigation into Seismic Performance of For-Profit Buildings in terms of Economics、H. Kinugasa、Proceedings of 14 WCEE、Paper ID. 09-01-0033、8pages、2008.10(査読有)
90. 非耐力壁を有する実大RC造架構の修復性能評価に関する実験的研究、向井智久、斉藤大樹、衣笠秀行、福山 洋、日本コンクリート工学年次論文集、Vol30、NO. 3、pp. 1051-1056、2008年7月(査読有)
91. 経済損傷指標に基づく収益用建築物の耐震性能評価、衣笠秀行、日本建築学会構造系論文報告集、第636号、pp. 401-408、2009年2月(査読有)
92. 建物高さの違いが火災による部分的性能劣化を有する構造物の耐震性能に及ぼす影響、上野夕貴、関根貴志、衣笠秀行、日本建築学会大会学術講演梗概集、構造I、pp 71-72、2008.9(査読無)
93. 経年劣化を考慮した仕上げ材を施したコンクリートの中酸化速度式の提案、古賀一八、金沢宇慶、衣笠秀行、日本建築学会大会学術講演梗概集、材料施工、pp. 955-956、2008.9(査読無)
94. UFC を用いたプレキャスト壁による耐震補強に関する実験的研究—その9 接合部要素実験概要—、近藤誠一郎、北代尚稔、白井一義、向井智久、諏訪田晴彦、福山 洋、衣笠秀行、日本建築学会大会学術講演梗概集、構造IV、pp. 803-804、2008.9(査読無)
95. Effect of a Facing Wall on Facade Flames、Akito Yanagisawa、Daisuke Goto、Yoshifumi Ohmiya、Michael A. Delichatsios、Yee-Ping Lee、Kaoru Wakatsuki、9th International association for fire safety science symposium、2008(査読有)

96. 植栽による市街地火災の延焼遅延化に向けた研究(その1)ICAL を用いた樹木の遮熱効果、椎名祐太、林吉彦、仁井大策、富山直輝、大宮喜文、小玉直史、日本建築学会関東支部審査付き研究報告集3、pp 25-28、2008 (査読有)
97. 火災時における鋼架構の崩壊温度とリダンダンシー、宮内智矢、鈴木淳一、寺川 喬、鈴木弘之、大宮喜文、若松孝旺、日本建築学会関東支部審査付き研究報告集3、pp 37-40、2008 (査読有)
98. ゾーン概念に基づく区画火災性状予測 可燃物の燃焼性状の定式化とゾーン統合モデルの構築、後藤大輔、柳沢晶人、立花和弘、大宮喜文、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2 分冊、pp 231-234、2008(査読無)
99. 開口噴出火炎の予測手法の構築 袖壁および対向壁が及ぼす影響、立花和弘、柳沢晶人、大宮喜文、広田正之、日本建築学会大会学術講演梗概集A-2分冊、pp 31-32、2008(査読無)
100. 地震により損傷を受けた区画部材の耐火性能に関する研究 -その1 載荷実験-、宮内智矢、市原嵩紘、鈴木淳一、大宮喜文、鈴木弘之、近藤史郎、社団法人日本火災学会研究発表概要集、pp 104-105、2008 (査読無)
101. 地震により損傷を受けた区画部材の耐火性能に関する研究 -その2 加熱試験-、市原嵩紘、宮内智矢、鈴木淳一、大宮喜文、鈴木弘之、近藤史郎、社団法人日本火災学会研究発表概要集、pp 106-107、2008 (査読無)
102. 実大4層建物完全崩壊実験における耐火被覆の挙動 -E-ディフェンス鋼構造建物実験研究 その32 -、鈴木淳一、市原嵩紘、平島岳夫、尾崎文宣、松山賢、松岡祐一、社団法人日本建築学会学術講演梗概、vol. 2008、pp 885-886、2008(査読無)
103. 地震により損傷を受けた区画部材の耐火性能に関する研究-その1 載荷試験-、宮内智矢、市原嵩紘、鈴木淳一、大宮喜文、鈴木弘之、近藤史郎、松山賢、社団法人日本建築学会学術講演梗概、vol. 2008、pp 321-322、2008(査読無)
104. 地震により損傷を受けた区画部材の耐火性能に関する研究-その1 載荷試験-その2 加熱試験-、宮内智矢、市原嵩紘、鈴木淳一、大宮喜文、鈴木弘之、近藤史郎、松山賢、社団法人日本建築学会学術講演梗概、vol. 2008、pp 323-324、2008(査読無)
105. 火災時における鋼架構の崩壊温度とリダンダンシー その2 架構の耐火性能向上への提案、伊藤卓、寺川喬、鈴木淳一、鈴木弘之、大宮喜文、社団法人日本建築学会学術講演梗概、vol. 2008、pp 197-198、2008(査読無)
106. 建築物の防火安全性能における建築的要素、(消防)設備的要素及び人的要素の役割と相互補完に関する研究、小林恭一、東京大学工学部都市工学科提出学位論文(博士号取得) (査読有)

107. 既存建築物の防火安全性能の確保における建築的要素と人的・消防設備的要素… 消防の取り組みの実績を踏まえて…、小林恭一、2008年度日本建築学会大会(中国)建築 法制部門研究
108. 協議会資料「建築ストック社会における建築法制度を考える」、pp 23-28、2008 (査 読無)
109. 地域防災力評価のための消防用可搬ポンプを利用した消火活動実験、樋本圭佑、西 田幸夫、諸隈貴寛、芝 真里子、秋元康男、北後明彦、関沢 愛、田中哮義、計画系論文 集 NO. 634 P. 2665 2008年12月